

## B 地域において子どもの読書活動を推進します

### 1 地域の役割と現状

#### （1）地域の果たす子どもの読書への役割

地域は子どもたちが遊んだり、暮らしたりする日常生活の場です。そして、さまざまな活動や生活体験を通じて成長する場です。しかし、都市化・少子化が進む中で子どもたちが自由に活動できる場が減少するとともに、地域での子どもの体験活動は減っています。

また、子どもに関わっている大人の環境に目を移すと、地域のなかでは昔に比べて住民相互の交流や助け合いが少なくなっているのが現状であり、人々の連帯感や人間関係の希薄化が進んでいます。地域においての子どもと大人の関わりが児童・生徒期の親などの保護者のみに限られるのではなく、「子どもは地域の子」という意識のもとで、地域のさまざまな世代を含む全体で子どもを育てていこうとする意識や行動が必要です。

読書活動においても、家庭から始まる読書活動が、自然に子どもが遊び、暮らし、成長する場である地域にまで広がっていくようにすることが重要です。それぞれの地域においては、その地域の子どもの現状や子どもを取り巻くコミュニティの実情に応じた読書活動を進めることが期待されています。

#### （2）公民館などの果たす役割

本市には各小学校区ごとに144の公民館があり、さまざまな地域活動の拠点となっています。その中で、近年の少子化や核家族化により育児に不安を抱える親などのため、子どもや保護者が気軽に参加できる各種講座やサークル活動などを積極的に増やしています。

乳幼児ふれあい学級など乳幼児とその保護者のための講座、小学生などの児童・生徒と保護者を対象とした学校週5日制関連事業や家庭教育学級など、子どもの年齢に応じたさまざまな子ども向け・保護者向けの講座を実施しており、その中で読み聞かせやお話会などを紹介して、子どもと保護者に読書の楽しみを伝えるなどして、地域の読書活動を推進しています。

また、公民館の改築時には児童等集会室を設置し、文庫活動などが行えるよう、書架や収納棚を配置するなど、読書環境の整備を進めています。

ほかにも、子どもたちに紙芝居やペープサート（※）など本を楽しむ催しを行ったり、総合図書館の団体貸出（※）を利用する市民の読書サークルによる文庫活動なども公民館を会場として広く行われており、市民団体との共働による子どもたちへの読書機会の提供にも力を入れています。

さらに、読書活動の地域における拠点としての図書館分館の他、子どもや保護者の利用する少年科学文化会館や市民福祉プラザなどの公共施設でも図書室を充実するなど、子どもが身近に本に親しむことができるような環境づくりに力を注いでいます。

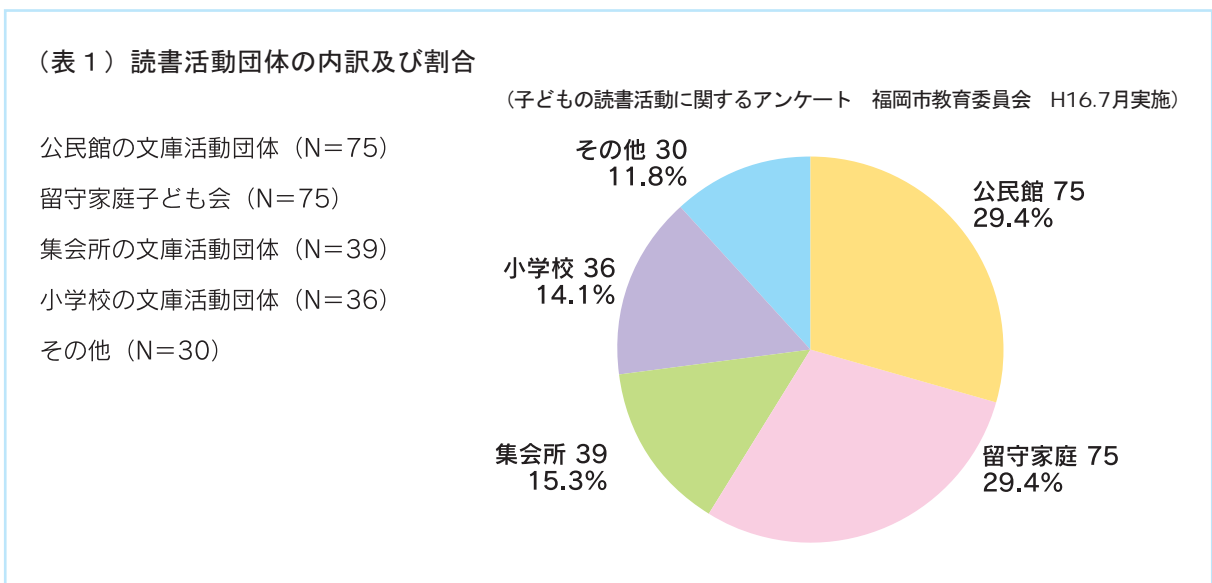
### （3）地域での文庫活動などの読書活動の状況

文庫活動は地域にある公民館や集会所などを活動場所として、子どもたちや地域住民への読書活動の普及を目的に、市民が作った読書活動団体です。定期的に活動日を設けて、総合図書館の団体貸出などを利用して図書を集め、本の閲覧・貸出を行うほか、読み聞かせや紙芝居、人形劇、パネルシアター（※）などの催しなども行っています。

子どもと本の架け橋として、子どもが身近な場所で多くの本と出会える場であり、保護者同士の出会いや情報交換の場でもあり、子育て家庭と地域をつなぐ場ともなっています。

福岡市では、地域での文庫活動などの読書活動団体の実態を知るため、平成16年7月に総合図書館の団体貸出に登録している団体及び公民館で活動している団体の合わせて255の市民団体に対して子どもを対象とした文庫活動などの状況について調査しました（資料編42ページ「子どもの読書活動に関するアンケート」参照）。

地域の読書活動団体の割合は、公民館の文庫活動団体と留守家庭子ども会がともに多く、次いで集会所、小学校の文庫活動団体が続いています（次表1参照。団体の詳細については、参考資料76ページ「子どもを対象とした文庫活動などの読書活動団体」参照）。

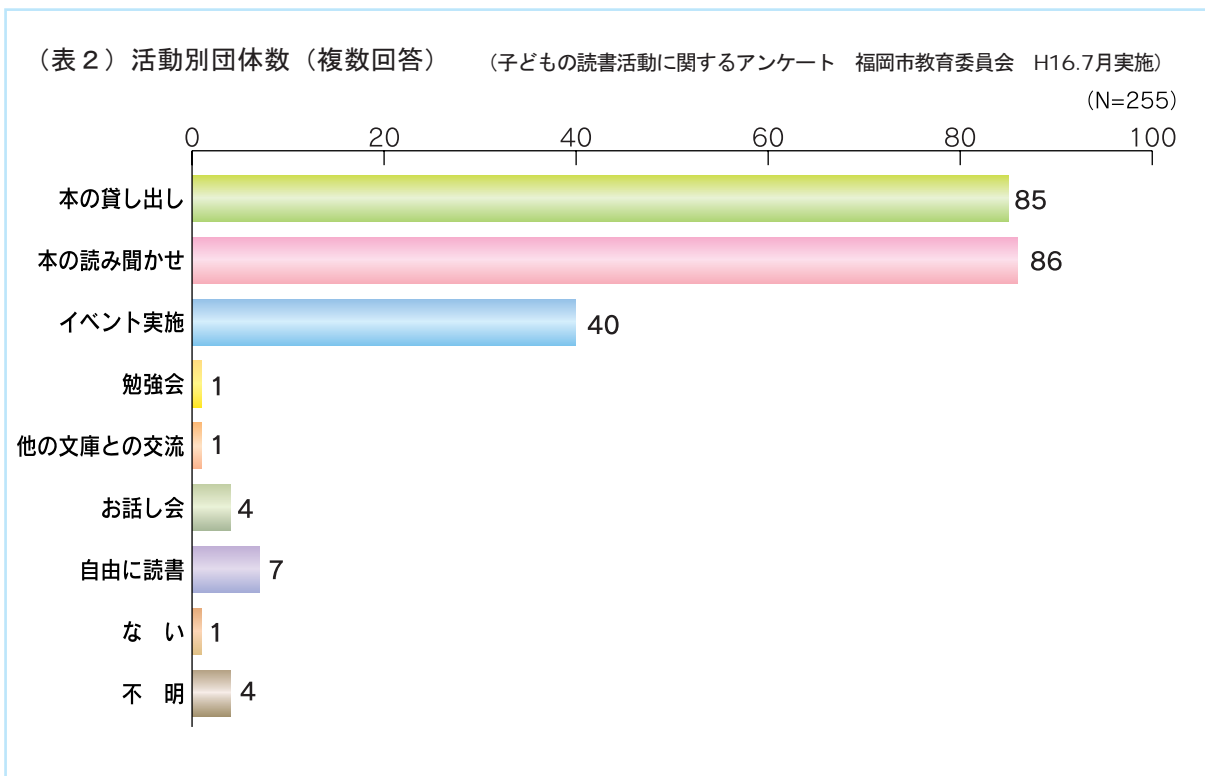


調査結果から、読書活動団体の会員数は51～100人が一番多く、次いで101～200人が多いものの、100人以下が61.7%を占めています。月間の平均参加人数は、100人以下が半数以上を占めており、これらの結果から推測される1回当たりの平均参加人数は数十人の団体が多

### 第3部 子どもの読書活動の推進に向けて（計画の5つの柱実現の取り組み）

いと思われます（資料編6 2， 6 3 ページ「子どもの読書活動に関するアンケート」参照）。

各団体の活動内容は、本の読み聞かせや本の貸し出しが多く、地域での子どもと本との出会いを作る場となっている実態がうかがえます。また、紙芝居や七夕・クリスマスなどのイベントを実施している団体も40団体に上り、さまざまな活動を通じて本好きな子どもを育てようとする工夫が見られます。一方、他の文庫との交流をしている団体は1団体のみで、限られた地域での活動にとどまっている現状がうかがえます（次表2参照）。



各団体の会員の中で行事などに参加するだけではなく、中心となって活動している人数は1～3人が一番多く、次いで4～6人で、10人未満の団体が全体の**41.4%**に上り、活発に活動している人は会員の中の一部の人に限定されているといえそうです（資料編6 2 ページ「子どもの読書活動に関するアンケート」参照）。

#### (4) 地域における保護者の読書活動への参加状況

本市が実施した「子どもの読書活動に関するアンケート」で18才以下の子を持つ保護者に「公民館や地域の文庫活動に参加されたことがありますか」と尋ねたところ「よく参加している」「ときどき参加している」が**11.0%**（全区分平均。以下同じ）、「以前よく参加していた」「以前ときどき参加していた」が**22.0%**で合わせて**33.0%**である一方、「参加したことはない」が**60.2%**にも上っています。「参加したことはない」と回答した人にその理由を尋ねると「地域文庫活動を知らない」「身近にそのような活動がない」が合わせて**45.2%**、「興

味がない」「他にすることがある」が合わせて**36.5%**となっており、関心がない人の割合が相当高くなっています（資料編56，57ページ「子どもの読書活動に関するアンケート」参照）。

同アンケートの「あなたは学校や地域の文庫活動などのボランティアとして協力できますか」の質問には「要請があれば協力したい（できる）」が**19.5%**にすぎないのに対し、「あまりしたくない」「時間的に余裕がない」「文庫活動などの必要を感じない」が合わせて**73.4%**と調査対象者の約4分の3を占めています（資料編57ページ「子どもの読書活動に関するアンケート」参照）。

これらの結果から、保護者の多くは読書の大切さを認識し、読書活動も好んではいらぬものの、文庫活動など実際の地域での活動に参加している人はほんの一部の人であり、地域での読書活動は主に一部の熱心な人の努力によって支えられているのが現状といえそうです。また、現在、地域での活動に参加していない保護者の多くは、今後機会があっても活動に加わることは消極的であることがうかがえます。

子どもが家庭と学校以外で過ごすのは、住んでいる地域が大半であるといえ、地域の大人が子どもにどんな環境を作れるかは子どもの社会性などの成長に大きく関係します。

地域全体で子どもに関わることの大切さは読書活動においても同じであり、乳幼児期はもちろんとりわけ地域で活動することが多くなる児童生徒期の子どもの健全育成のためには地域での取り組みが重要です。地域の文庫活動を通じて、読書を通じた子どもの居場所づくりをするなど、それぞれの地域コミュニティの実情に合った市民や市民団体などの取り組みを行政も共働きの視点から支援し、地域と力を合わせて子どもの成長に関わる取り組みが求められています。



## 2 地域における読書活動推進のための取り組み

家庭から始まる子どもの読書活動が、子どもが遊び、暮らし、成長する場である子どもの住んでいる地域に自然に広がっていくことが大切であり、市はそれぞれの地域の状況に応じた市民の活動が活発になるように支援していきます。

公民館など地域にある市の関連施設は、地域での読書活動支援の核となるものであり、市民向け講座の実施、活動の場の提供や子ども向け図書館の充実を図るなど、地域が子どもの読書活動を進める環境づくりを実施していきます。

あわせて、子どもの読書に関して市民や市民団体が実施する文庫活動や本のリサイクルなどの自主的な活動を支援していきます。

①【新規】子どもに読ませたい本のリサイクルによる活用（公民館、PTAなど）

より身近な所で本に接することができるようにして、子どもたちの読書活動を推進するため、子どもに読ませたいお薦めの本を、必要とする人に提供することを目的に、公民館やPTAが中心となり本のリサイクルを図ります。

②公民館での読み聞かせサークルや文庫活動への支援

読み聞かせサークルや文庫活動への支援について、今後も活動の場の提供に努めるとともに、地域住民への周知に向けて、公民館だよりなどでの広報に努めます。

③公民館による学校週5日制関連事業や家庭教育学級での読書活動の推進

公民館で実施している学校週5日制関連事業や家庭教育学級のなかで、読み聞かせやお話など読書に関する内容を取り入れ、読書活動の推進に努めており、今後もその充実を図っていきます。

④地域の文庫活動団体への支援

図書館において地域のボランティアなどによって運営されている文庫活動団体に本やイベント用の図書用具（パネルシアター、ペープサート、大型紙芝居など）を貸し出ししたり、除籍図書の無料譲渡を行うなど、地域の文庫活動団体への支援を行います。

⑤【新規】学校図書館の子どもたちへの開放

学校図書館が子どもたちの読書活動の推進に役立つように、学校図書館の開放について検討を進めていきます。

⑥子どもプラザにおける子どもの読書活動の推進

乳幼児と保護者がいつでも気軽に利用でき、子育てに関する相談や情報交換ができる各区の拠点として設置する子どもプラザにおいて、利用者のニーズにこたえ、絵本の読み聞かせなどを実施し、子どもと本の出会いを支援します。

⑦市関連施設での子どもの読書活動の推進

少年科学文化会館、美術館、博物館、人権のまちづくり館、市民福祉プラザ、中央児童会館などにおいて、それぞれの施設の特徴を生かした、さまざまな分野の子ども向け図書の収集を進め、子どもの読書活動を推進します。